

【事例 H27-01-01】埼玉県ふじみ野市**こころの健康推進事業
＝死亡個票から導き出す地域の特性と対策＝**

自殺対策を行う上で市の自殺の実態を把握するため、公表されたデータだけでなく死亡個票による実態調査を行った。分析した結果では、若年層の自殺が横ばい状態であったため、若年層の自殺予防対策に重点を置いた対策を行った。教育委員会や各学校と協議の上、市内小中学校の養護教諭に対する自傷行為や予防教育に関する研修会、保護者を対象としたセミナーを開催した。

【実施主体】 埼玉県ふじみ野市**【大綱の分類】** 自殺の実態を明らかにする**【事業予算】** 平成 26 年度 112 千円**【利 点】**

分析した結果をもとに対象層のアプローチ方法を検討

【実施に至るまで】**【背景・必要性・理由の概要・等】**

自殺対策を行う上で市の自殺の実態を把握する必要があるが、公表されたデータだけでは詳細の把握に限界があるため。

【計画を立てる上での工夫・等】

- ・対象層と接する機会の多い身近な存在の人や地域で積極的に活動を行っている人を対象とした事業を行うことにより、対象層に啓発が届きやすくなるよう留意した。
- ・参加しやすいように「人生に定年はありません」「ココロにやさしい食事の話～うつ病予防と元気回復レシピ～」 「お母さん、自分を大事にしていますか」等興味を引きやすいテーマやタイトルにするとともに、主となる団体や活動拠点に出向き、事業の趣旨を口頭で直接説明することにより、積極的な参加を呼びかけた。
- ・配布したチラシの裏面に相談窓口の一覧を掲載した。

【具体的な内容・実施の過程】

- ・保健センターで調査・分析した結果を基に、市内 11 部署の委員で構成された庁内連絡会議において対策の方向性を検討した。
- ・教育委員会や各学校との協議を行った。
- ・市内小中学校の養護教諭に対する自傷行為や予防教育に関する研修会及び、思春期の子供を持つ保護者を対象とした「自分を大切にすること」をテーマとしたセミナーを開催した。

【成 果】

- ・対象層及び啓発の対象者を明確にすることで、より具体的な対策を実施することができた。
- ・自殺の発生時刻が年代によって10～20歳代の若年層は深夜帯、30～50歳代の稼働年代層は午前中、60歳代以上の高齢層は午後に多いことがわかった。
- ・住まい別で分布図を作成したところ、駅周辺の地域に集中していた。

【補 足】なし

【課 題】単年度では自治体としての傾向を掴むことが困難であるため、継続的に分析を行う必要がある。

【事業種別】人材育成事業・普及啓発事業・強化モデル事業

【準備期間・人数】1～2ヶ月（死亡個票閲覧から分析まで）・2名

【予防段階】1次

【自治体規模】人口 11万人（H27国勢調査から）

【自治体負担率】0%（埼玉県自殺対策緊急強化基金事業費補助金使用のため）

【事業対象】市内小中学校の養護教諭、保護者

【支援対象】小学生、中学生

【実施主体・問合せ先】埼玉県ふじみ野市 保健センター

TEL: 049-293-9045

E-mail: kenkoushien@city.fujimino.saitama.jp

URL: <http://www.city.fujimino.saitama.jp/>

【参考資料・文献】死亡個票

【作成日】2016/12/26 2017/4/20 更新